

病原体別予防策に関する相談

相談４：B型肝炎患者の血液汚染食器の取り扱いについて

(相談内容)

入院中のB型慢性肝炎治療中の患者の食器は、通常、特に区別することなく使用しています。高齢で認知機能低下があり食器をくわえたり舐めたりすることがある場合、口唇を裂傷したり口腔内から出血することがあるため、食器に血液汚染の可能性があります。血液が付着した食器はどのように扱えば良いでしょうか。

1. B型慢性肝炎患者の血液が付着した食器の取り扱い方

B型肝炎ウイルスは血液を媒体とし、ウイルスに汚染された血液が体内に侵入し感染が起こります。B型肝炎ウイルス陽性患者の血液を傷のある手で触ったりしないよう医療従事者は注意が必要です。ウイルスの侵入を防ぐためには、この場合血液の付着した食器は素手で取り扱わないことが最も重要です。そのため、血液が付着した食器を取り扱う際には、標準予防策として手袋の着用が必要となります。

また、明らかに血液が付着した食器を他の患者が触れることのできる場所で長時間保管をしないことや、汚染した食器は速やかに厨房へ返却するなど、それらの食器を取り扱うスタッフへ教育と指導も必要と思われます。

2. 厨房での洗浄消毒方法について

CDCの2007年隔離予防策ガイドラインは「食器洗浄機で使われている熱水と洗剤の組み合わせは食器類や調理用具の汚染除去には十分である。それゆえ、食器類や調理用具について特別な予防策は必要ない。再利用する食器類や調理器具は感染経路別予防策を必要とする患者においても使用できるであろう。」と述べています。また、給食における消毒方法では、B型肝炎ウイルスの消毒法の例としては①熱水98℃6分②熱水80℃10分③0.1%次亜塩素酸ナトリウムに30分～1時間浸漬④70%以上のアルコール系消毒薬が有効とされています。

参考文献：1) 感染症法に基づく消毒・滅菌の手引き（厚生労働省）

2) 消毒と滅菌のガイドライン補訂版 へるす出版

3) 隔離予防策のためのCDCガイドライン 2007

4) 消毒薬テキスト 第4版